

陸前高田市広田地区民生児童委員協議会

(平成 27 年 3 月)

1 はじめに

陸前高田市広田町は、市の南東部、太平洋にせり出す半島に位置しています。産業の中心は漁業で、住民の多くは、魚、わかめ・昆布・ほたて・ほやなどの養殖で生計を維持し、平穏な暮らしをしていました。世帯数 1,112 世帯、人口 3,700 人の市内第 2 の人口で、民生委員・児童委員 11 名（うち主任児童委員 2 名）で活動しています。

東日本大震災では、当地区も死者 42 名・行方不明者 13 名、被害総戸数 377 戸の被害を受け、民生委員・児童委員も 1 名が避難誘導中に亡くなり、7 名が住宅全壊の被害を受けました。犠牲になった委員は、要援護者の安否確認をしなければならぬと家族に言い残し、住民の制止を振り切って活動を続け、津波に巻き込まれました。

2 震災前の防災対策

市の呼びかけで、宮城県沖を震源とする地震・津波を想定し、火災をはじめ道路の寸断、建物の崩壊等に対応するため、平成 17 年 3 月までに町内 8 地区に自主防災会が結成されました。

市は、市民の防災意識の高揚に役立てるため、「わが家の防災ガイドブック」を作成し、配布しました。このガイドブックはいざというときの対処法をわかりやすく解説しており、災害発生時の対応と心構えについて家庭で話題にしてもらったり、防災学習会で活用してもらうことを期待して作成されたものです。また、過去に襲来した津波被害をもとに「津波防災マップ」を作成し、防災対策に役立てようと懇談会も開催されていました。

その後、平成 22 年 3 月には、当民児協主催で、「要支援者地域支え合いマップづくりセミナー」を開催しました。自治会、自主防災会、女性会、老人クラブなど各団体と民生委員が連携して必要な情報を共有するため、講師を招き、地図上で日常の見守りや災害時に支援を必要とする世帯を確認しました。さらに近隣住民に協力を依頼する等、安全安心なまちづくりに取り組むことに努めてきました。このようにさまざまな備えをしていましたが、想像を絶する未曾有の大震災に遭遇し、被害を免れることはできませんでした。

3 震災時の地区の様子

広田半島は、広田湾と太平洋側から押し寄せた津波に襲われ、陸の孤島と化しました。電気、水道、固定電話や携帯電話、ガソリン、ガス、道路などライフラインは全て止まりました。そのため、市内でも行政の届きにくい地域となり、支援物資が届かず、情報も滞りました。被災した住民は応急仮設住宅が建設されるまでの約 4 か月間、小学校、寺、公民館等で避難所生活を送りました。被災した委員 7 名も避難所で生活しながら、炊き出しや救援物資の仕分け、配布を手伝うとともに、町内で開かれた災害対策本部の会議に参加して情報共有を図りました。

4 現在の地区の様子～災害に強く活力あふれる広田半島に～

震災から 4 年が経過し、町内では、10 か所の高台での集団移転用地の造成もほぼ終わり、住宅建設が始まっています。また、災害公営住宅が 2 か所建設中で、平成 27 年度に完成予定です。

また、震災前、海岸線を通っていた県道のルートを変更し、山を切り開いて広田半島

の中心部を通る日常生活や緊急時に欠かせない主要道路として整備する計画です。

被災した保育園、コミュニティセンター、診療所、消防屯所等の公共施設は、高台や小学校裏山を造成して再建する計画が進められています。さらに、県の事業で、海洋性野外活動機能・集団宿泊研修機能を備えた施設が設置される予定です。

5 活動紹介

震災直後は、各委員が担当地区の要援護者宅を訪問し、安否確認を行ない、被災状況を把握しました。平成23年4月には住田町民児協、県民児協、市社協等の協力・支援により、各家庭や避難所を訪問してニーズ調査を行ない、その結果を踏まえて、訪問入浴、ヘルパーの派遣、デイサービスに通所させ介護者の休養を図るなどの対応を行ないました。

その後、平成23年8月に応急仮設住宅が建設され、現在に至るまで見守り支援活動を行なっています。

毎月の定例会会場だったコミュニティセンターが被災したため、震災以降は小学校の教室を借りて開催しています。定例会には、陸前高田市社協の生活支援相談員にも出席してもらい、事例検討を通じてそれぞれの課題にどう対応するか話し合い、連携して見守り支援活動を行なっています。

また、市社協が年2回開催する高齢者の介護予防「いきいきライフ」、町内8地区で開催する「お茶っこ飲み会」、市社協の助成事業「うるおいとやすらぎの家」事業による交流会等では、参加を呼びかけたり当日の運営協力を行なっています。さらに、市社協が毎週開催している応急仮設住宅の集会所を利用したサロンの運営にも協力しています。

6 おわりに

全国の民生委員・児童委員の皆様をはじめ、多くのボランティアの皆様などからたくさんのご支援をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。